

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2023年10月-12月 通巻第177号



園長のおすすめ 2022年12月27日号より

ブーゲンビリア *Bougainvillea spectabilis* Willd.

中南米原産の熱帯つる性小木で、オシロイバナ科ブーゲンビリア属の植物です。花には、白、赤、ピンク、オレンジなど様々な色があります。

本当の花は3本見える白い部分で、周りの花の様に見えるのは苞葉といわれるもので通常3枚、又は6枚あります。また、熱帯の植物ですが、水が多いと花は少なくなるようです。

この株は、可部にあったジャングル温泉（現：安佐北区民文化センター付近、昭和49年頃に廃止）から譲り受けたもので、まさに広島市植物公園の歴史の1本です。

（園内位置：大温室フラワーコーナー）

〔写真・文 永井 親雄〕

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>



特別企画展「牧野富太郎と広島」を振り返って

通巻175号（2023年3月末発行）で予告をしましたが、4月15日～6月4日と6月17日～9月18日の会期で、特別企画展「牧野富太郎と広島」を開催しました（写真1）。令和5年度NHK連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルとなった植物学者「牧野富太郎博士」の業績や人柄、広島との関わりを紹介する内容です。前期の展示では主に貴重な植物標本など実物を充実させ、後期の展示では、植物ぬり絵や植物を使った遊び、標本づくりの紹介、木育（積み木や身近な樹木紹介）等、植物を題材にした体験コーナーを充実させ、幅広い年齢層の方に興味を持っていただけるよう、展示内容に変化を持たせて開催しました。



写真1 展示会場の様子

展示した資料は、高知県立牧野植物園や東京都立大学牧野標本館のほか、広島大学や県内の方々からお借りしました。牧野博士に関する展示は、22年前（平成13年）にも本園で行いましたが、その時にお借りした資料もいくつか展示することができました。

牧野博士は生涯を通して植物の研究を続け、1,500以上の学名を記載し、精密な植物図を備えた植物図鑑を作っただけでなく、日本各地で行った観察会などで植物の魅力を参加者に伝え、後進の育成にも努めました。本園の「体験コーナー」は、植物を楽しみ尽くし、その魅力を多くの人に伝えるという意味では、牧野博士が目指したものと共通する点があったものと思っています。

期間中には、「牧野博士足跡ツアー」として「芸北のカキツバタ」（北広島町）や「厳島」（廿日市市）の植物観察会を開催しました。

いずれも定員を超える申し込みがあり、たくさんの方に植物に親しんでいただきました。

また、広島大学名誉教授の関太郎氏による講演会「牧野富太郎博士の頭のなか－植物の特徴をまとめるとはどういうことか－」や、高知県立牧野植物園職員の藤井聖子氏による講演会「牧野富太郎博士94年の生涯」は会場が溢れかえる程の盛況ぶりでした。テレビの効果があるとはいえ、植物への興味を持つ方の多さを改めて実感しました。より多くの方に入園していただくことは、植物公園の大きな課題の一つです。今後の対応策のヒントになるのではないかと考えています。



写真2 おさんぽマップ「マキノをさがせ」園内の展示状況

さらに、園内のリアルな植物を観察していただくこと、ドラマと連動してテーマとなった植物（ムジナモ、コモチマンネングサ等）をSNS等で発信したほか、おさんぽマップ「マキノをさがせ」を季節ごとに作成し、博士ゆかりの植物を観察してもらえるように工夫しました（写真2）。

余談になりますが、ゴールデンウィーク中の5月6、7日には、NHK広島放送局で植物ワークショップを開催し、生の植物を持参し植物ぬり絵やタラヨウのはがき体験、オナモミダーツなどを提供しました。これらは、特別企画展の体験コーナーにも活用しました。

本紙発刊時には、すでに展示は終了しています。多くの方々の協力をいただいてこの特別企画展が好評のうちに開催できました。厚くお礼申し上げます。

2023年10月～12月 展示会・イベント案内

秋のグリーンフェア期間中 [10/28～11/5] は入園料無料（駐車場は有料）

10/28 (土)
～ 11/5 (日)

秋のグリーン フェア2023

クイズラリーやコンサートなど家族で気軽に秋の緑に親しんでいただけるイベントが盛りだくさんです！！

11/19 (日)

広島市植物公園 写生大会

秋の植物公園で植物の絵を描きませんか？先着300名の受付で、審査（賞品あり）と受賞作品の巡回展示を予定しています。

11/25
12/2, 9, 16, 23
(毎週土曜日)

花と光のページェント (夜間開園)

キャンドルやイルミネーションで園内を華やかに彩るとともに植物のライトアップも行い、幻想的な雰囲気演出します。展示温室のクリスマスムード満点の装飾も必見です。クリスマスコンサートもあります。

展示会のご案内

薬用植物展		9/ 2～10/ 1	展示温室
ボタニカルアート作品展	共催：NHK文化センター ボタニカルアート教室	9/23～10/19	展示資料館
サボテン・多肉植物展	共催：広島カクタスクラブ	10/ 7～10/22	展示温室
秋の山野草展	共催：広島山草同好会	10/14～10/19	屋外展示場
野生きのこ展	共催：広島きのこ同好会	10/21～10/25	展示資料館
秋の洋ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部他	10/28～11/ 5	展示温室
ハンギングバスケット作品展	共催：日本ハンギングバスケット協会広島支部	10/28～11/ 5	大温室前
キク展		10/28～11/19	屋外展示場
趣味のボタニカルアート展	共催：花も実もある会	10/28～11/23	展示資料館
寒蘭展	共催：広島和蘭会	11/11～11/19	展示温室
クリスマス飾るフラワー展		11/23～12/25	展示温室
私の好きな花たちの写真展	共催：新田写真教室	11/25～12/24	展示資料館

野生きのこ展

サボテン・多肉植物展

クリスマス飾るフラワー展



Event Information 2023 10-12

植物園で開催されるイベントを紹介します

10月

みどりとむし講座 (先着100名)
「アサギマダラ観察会」
10月15日(日) 午前11時～正午

秋の山野草実演会 (先着50名)
10月15日(日) 午後1時半～2時半

コスモスのお花摘み (先着200名)
11月5日(日) 午後1時半～3時半

洋ラン実演会 (先着20名)
11月5日(日) 午後1時半～2時半

ボタニカルアート色付け体験 (先着10名)
11月12日(日) 午前10時半～正午

寒蘭実演会 (先着50名)
11月12日(日) 午後1時半～2時半

植物写真撮影講習会 (先着30名)
11月26日(日) 午後1時半～3時

11月

講師：石井康子氏 (先着100名)

寄植え講演会「チェルシーフラワーショー
作庭及び福岡市一人一花運動の取組について
～ハンギングバスケット作成実演とともに」
11月4日(土) 午後1時半～3時半

* イベントの内容は、一部変更になる場合があります。最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

* 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています

* 10/7, 10/24, 11/11, 11/28, 12/3, 12/26 各日午前11時～は、園内で職員による植物うんちく語りを実施しています

◇募集◇ ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号(・希望日)を記入してお申込みください。
植物公園のホームページ(Web申込のQRコード)からもお申込みいただけます

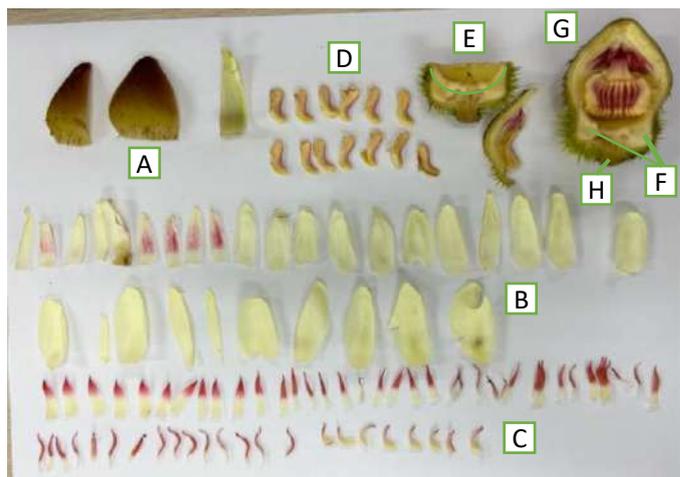
催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
クリスマスリース作り講習会 11月18日(土) 午後1時半～3時	クリスマスに玄関や室内を飾る壁掛けを制作します。 材料費：1,500円	30名 (抽選)	11月1日 【必着】	
冬のガーデニング講座 11月25日(土) 午後1時半～3時半	正月の玄関にも飾れる初冬のハンギングバスケットを作ります。 参加費：3,500円	15名 (抽選)	11月1日 【必着】	

植物観察入門「オオオニバスの花」の本文は裏面(裏表紙)に掲載しています。

参考文献：デービッド・アッテンボロー(1998). 植物の私生活. 319pp.山と溪谷社, 東京.

Smith LT, et.al. (2022). Revised Species Delimitation in the Giant Water Lily Genus *Victoria* (Nymphaeaceae) Confirms a New Species and Has Implications for Its Conservation. *Front. Plant Sci.* 13:883151.

写真2 オオオニバスの花のつくり(1つの花を解剖)
A 外花被片 B 内花被片 C 雄しべ D 偽柱頭
E 柱頭盤 F 子房 G 縦割りした蕾 H 花柄



実りの秋 Harvest season



レモン (大温室前)



コーヒーノキ (大温室)



カキノキ (うらら池沿い)

実りの秋が今年もやって来ました。園内では、様々な果実がたわわに実っています。全て観賞用に栽培していますので、人間が食べることはありませんが、屋外で実ったものは冬の野鳥の貴重な食べ物になっています。うらら池の周りは、バードウォッチングにもおすすめです。

寒蘭展 Kanran Orchid Exhibition



展示風景



華神 (宮崎産)



弁財天 (鹿児島産)



西呑 (高知産)



渚 (高知産)



荒城の月 (高知産)

寒蘭 (*Cymbidium kanran* Makino) は、牧野富太郎博士が学名をつけた可憐な東洋蘭のなかまです。日本各地に自生していましたが、乱獲により野生では絶滅が危惧されています。牧野博士ゆかりの高知の土佐寒蘭のほか、鹿児島島の薩摩寒蘭、宮崎の日向寒蘭などがよく知られています。

10月～12月に見ごろを迎える植物

春～秋



ハイビスカス・アーノットティアヌス
(大温室)

12月頃



ポインセチア
(展示温室ほか)

春～秋



プルメリア
(サボテン温室)

12月～1月



キルタンサス
(サボテン温室)

9月



シモバシラ
(花の進化園)

11月下旬～12月



皇帝ヒマワリ [ニトベギク]
(花の進化園)

10月中旬～11月上旬



バラ アイバーグ
(バラ園)

10月中旬～11月上旬



コスモス センセーション
(レストラン前花壇)

10月中旬



フジバカマとアサギマダラ
(ハギ園周辺)

11月下旬～12月



アシズリノジギク
(ロックガーデン)

10月～12月、春



コブクザクラ [子福桜]
(イベント広場南側)

11月～12月



グランサムツバキ
(ツバキ園)

毎年、10月中旬になると、旅する蝶として有名なアサギマダラが飛来します。園内に植えているフジバカマのなかまの蜜を吸いに立ち寄っているのですが、今年からフジバカマの植栽を休憩展望塔近くのハギ園とその周辺にまとめました。新しい場所にもたくさん飛来することを期待しています。 [写真・文：久保 晴盛]



Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

**Q. 夏越しをしたゼラニウムの株が弱ってきました。
どうしたらよいのでしょうか？**

A. どのような症状が出ているかによって、対処方法が違います。まず一つ目は、葉が巻いている場合です。水切れの場合は水やりをしたら元に戻りますが、戻らない場合は根腐れしています。ゼラニウムは過湿に弱いので、表土が乾きはじめたら水をやるようにしましょう。また、鉢から根鉢を抜いた時、土がくずれたり、傷んで黒ずんだ根があれば、古土と傷んだ根を落とし、地上部を軽く切り戻して、小さめの鉢に植え替えましょう。二つ目は、下葉が黄色くなったり、落ちたりする場合です。この場合は、根詰まりしているので、底と肩の土を落とし、一回り大きい鉢に植え替えます。根詰まりした株の特徴は他にもあり、表土に根が出てくる、水やりの際なかなか水がしみ込まない、朝水やりしても午後には土が乾いているなどがあります。三つ目は、葉の色が白くなっている場合です。これは、夏場の高い気温により一時的な高温障害となり、養分吸収のバランスがくずれる時に起こる症状です。秋には自然に回復して、緑色の葉に戻ります。また花房の中の花が枯れている場合は、弱っているのではなく終わった花が残っているだけです。灰色かび病の原因になるので、こまめな花がら取りを行いましょう。これらの対処で10月にも花を楽しみましょう。

[文 田中 宏昌]

Q. コスモスの葉に白い粉をまぶしたようなものが出て、元気がありません。どうしたらよいのでしょうか？

A. コスモスはメキシコ原産のキク科の一年草で、別名秋桜（アキザクラ）ともいい、秋花壇を彩る人気の草花です。丈夫で育てやすい草花ですが、うどんこ病には弱いので注意が必要です。

日当たり・風通しが悪い場所ではうどんこ病の発生が助長される傾向にありますので、このような条件の場所は避けて植えつけ、密植はせず株間は25cm以上あけるようにします。

また、コスモスはやせ地でもよく育つ一方、多肥ではうどんこ病の発生が助長されるので、肥料（特に

チッ素分）を与えすぎないようにします。暑さが一段落して秋らしい気候になると、葉に夜露が降りようになり、うどんこ病が発生しやすくなります。

上記の対策をしてもうどんこ病を防ぐことができない場合は、農薬に頼ることになりますが、近年は住宅地での使用にも安心な、食品添加物にも使われる安全性の高い成分（還元澱粉糖化物、脂肪酸グリセリド、炭酸水素カリウムなど）のできたうどんこ病治療薬があります。

また、最近になってコスモスで報告されるようになった病気として、白斑病があります。白斑病は、一見うどんこ病によく似た症状ですが、病斑の境界がはっきりして白斑となり、下葉から病斑が出ます。イミベンコナゾール乳剤が登録農薬として挙げられます。

[文 泉川 康博]

Q. キンギョソウがこぼれ種で増えたのですが、生育環境が同じなのに小さな花になったり、形が変わったりしてきれいな花が咲きません。なぜですか？

A. 季節や施肥などの要因もあるかと思いますが、種取りをしたキンギョソウがF1（雑種第一代）品種である可能性があります。「雑種強勢」といって、「花付きが良い品種」や「病気に強い品種」といった、異なる特徴を持つ品種同士を掛け合わせることで、両親となった品種よりも強い性質が現れる例が知られています。この目的で掛け合わせた第一世代の雑種が「F1品種」です。

ただ、このF1品種から採取した種子は表面に現れる特徴が安定していない状態なので、必ずしも親と同じ特徴を持つとは限りません。そのため、同じ花を咲かせるためには、再度同じ種子を購入し栽培しなければ再現が出来ません。F1品種の見分け方は、種袋にF1と書いてあることもありますし、〇〇交配と記載されていることもあります。

F1品種の種子は少し高価ですが、育種家が長い時間をかけて組み合わせを試験した末に作られているので、値段相応のポテンシャルを発揮してくれます。

[文 中原 祥之]

オオオニバスの花 Flower of royal water lily

当園の夏の恒例といえば、オオオニバス試乗体験会。オオオニバス (*Victoria amazonica*、スイレン科オオオニバス属) は、1837年にイギリスに初めて導入され、当時の女王に敬意を表し、属名Victoriaと名付けられました。オオオニバス属でよく知られているものには、パラグアイオニバス (*V. cruziana*) と上記2種の交配種であるロングウッドオオオニバス (*V. 'Longwood Hybrid'*) があり、どれも夏には大きな葉を熱帯スイレン温室の池に広げます。

さて、オオオニバスの花をじっくり見たことがあるでしょうか？今回は、ロングウッドオオオニバスの蕾を入手できましたので、解剖してみました (写真1)。



写真1 ロングウッドオオオニバスの蕾(左)と縦に割ったもの(右)

【オオオニバスの受粉方式】

オオオニバスの花は2日間開閉を繰り返します。面白いことに、1日目は雌、2日目は雄として機能します。1日目の白い花は強い香りがあり、現地ではコガネムシの仲間がやってくると言われています。花にやってきた虫は、花の中心部に輪になってついている偽柱頭 (ぎちゅうとう、糖分とでん粉を多く含んでいる) を食べます。虫がごちそうに夢中になっている間に花弁が閉じ、花の中に虫を閉じ込めてしまいます。

その間に葯が成熟し、花粉をこぼし始めると、虫は花粉だらけになってしまいます。これで、花粉の運び屋ができあがります。2日目に花弁が白からピンクに代わり、夜になり花を開くと、虫は花から解放され、新たな花を探して飛び立ちます。まだ受粉していない香りのよい白い花をさがして着地すると、見事花粉が渡され、受粉するという仕組みです。当園では、人工授粉をすることで、毎年採種しています。

【花のつくり】

ロングウッドオオオニバスの蕾 (6cm×8cm) の外花被片4枚は、トゲが多く付いています。蕾を縦にふたつに割り、蕾の中身半分を観察してみました。外花被片内側には白く薄い内花被片 (花弁に相当するもの) が30枚ほどありました (写真2)。さらにその内側には先端が赤みを帯びた雄しべが60本、さらに内側にふわふわの偽柱頭が13本ありました。割った蕾の口の中の歯が並んでいるような部分が、偽柱頭といわれるものです。ここまで取ると、下半分のお椀になった部分が残ります。外見からは雌しべがわかりませんが、お椀の表面が柱頭盤といわれる部分で、ここが雌しべにあたるものようです。お椀の下のふくらみが子房です。

割った蕾の形が芸術的なことも驚きでしたが、虫との共存に向けて進化したユニークな花の形態も興味深いですね。

写真2は内面 (イベント情報欄の下) に掲載しています

[写真・文 富澤 まり]



広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 ㊟ FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半 (入園は4時まで) ■休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

